

アメリカにおける公共図書館と博物館の連携型生涯学習プログラム

加藤 春子

近年、博物館・図書館・文書館の連携である MLA 連携が注目を浴びている。いずれの施設も文化的情報資源の収集・蓄積・提供する公共機関であると共に、生涯学習施設でもある。生涯学習施設同士が連携することで、より良いサービスの提供や新たな利用者層のニーズの発掘などといったメリットが考えられる。しかしこのような連携型プログラムは日本国内でまだ活発に行われておらず、博物館資料を用いた展示が行われる場合が多い。一方、アメリカでは図書館と博物館の連携事業が注目・奨励され、各地の図書館にて実践されている。そこで、本研究では、アメリカ公共図書館と博物館との連携プログラムに着目し、連携プログラムの実態について明らかにする。

アメリカの公共図書館と博物館が連携して行った生涯学習プログラムを対象として、文献調査とウェブサイト調査、インタビュー調査を行った。本研究では、生涯学習プログラムを施設がプログラムとして広報を行い実施された講演、ワークショップ、実験等とする。生涯学習プログラムの中でも、公共図書館以外が行ったプログラムおよび展示は対象から除外する。プログラムがどのように進められたかその過程について、またプログラムがどの利用者層にどのような意図で作成されたかについても調査した。図書館の対象の範囲は、州や国、地域によって設置された図書館を公共図書館とした。博物館の対象の範囲は、博物館図書館サービス振興機構 (Institute of Museum and Library Services) の 2015 年度第一四半期版のデータベースに含まれている博物館を対象とした。

調査結果は、ミネソタ州、キットサップ地域とシアトル、ピッツバーグ、サンアントニオの 4 つの地域に分けて、連携の実践例をまとめた。連携型プログラムは合計 25 となり、関わった施設は公共図書館 5 館、博物館 9 館となった。

連携型プログラムの過程に着目し、「図書館提案型」、「博物館提案型」、「博物館リスト提示型」、「インフォーマル型」の 4 つに分類した。「博物館リスト提示型」は、コンタクトが維持しやすくプロセスが複雑でない点から、連携しやすい形式であることが明らかになった。図書館側で提示された課題は連携の関係性形成であり、博物館側で提示された課題は具体的な連携に関する方法であった。問題点を踏まえ、連携型プログラムの発展には連携を築きやすい環境を作ることと、資金面を支える支援団体の存在が重要であると結論付けた。

図書館と博物館ともに連携に意義を見出していた。異なる施設同士の連携は、両者の関係性の構築が困難である場合が多い。施設同士の連携とプログラム形成を支援するシステム構築と、資金援助強化のための博物館にかかわる基礎データの収集が必要である。

(指導教員 吉田右子)